

◎米公民権運動のローザ・パークスさん死去

【CJC=東京】ローザ・パークスさんが10月24日、デトロイトの自宅で死去した。享年92歳。死因は明らかにされていないが2002年から認知障害状態にあったという。

米公民権運動活動家。本名ローザ・ルイズ・マッコリー。1913年2月4日アラバマ州生まれ。32年黒人理髪師のレイモンド・パークス氏と結婚。レイモンドさんは『全米有色人地位向上協会』（NAACP）のメンバーで、ローザさんも第二次世界大戦後、NAACPに参加した。

55年12月1日、42歳当時、アラバマ州の州都モンゴメリーで人種によって座席が分離されていたバスで白人に席を譲ることを帰宅途中の疲労を理由に拒否、市条例違反で逮捕された。州簡裁で罰金刑を宣告されたが、バス車内の人種分離法規は違憲として控訴、翌56年、連邦最高裁が違憲判決を出した。

本人は単純な拒否と考えていたが、マーティン・ルーサー・キング牧師らが抗議運動に立ち上がり、モンゴメリーのバス・ボイコット運動を1年以上にわたって展開した。最高裁の違憲判決が全米での公民権運動を加速し、63年の「ワシントン大行進」では参加者が20万人と運動は最高潮に達し、64年には『公民権法』が成立した。

99年、連邦議会は『議会金メダル』を贈った。モンゴメリーには『ローザ・パークス博物館』が設立されている。人権運動家ジェシー・ジャクソン牧師は「ローザ・パークスは、平和と自由へ向かっての歴史の長い旅の中で権力に対する権利の底知れない力を見せてくれた」と語っている。

opinion news project

いまの米国を、福音派(エバンジェリカル)と呼ばれる保守的なキリスト教徒の存在抜きに語ることは難しい。福音派とは何かを一言でまとめるのは、もっと難しい。先日、ワシントンで講演した南部バプテスト連盟のリチャード・ランド氏は、福音派の考えの特徴として「聖書だけが神に関する知識の権威で、キリスト教徒の生活指針」「イエス・キリストは愛肉した神であり、罪深い人類の救済者」「皆が個人的な面心をするこの必要性」などの点を挙げた。

ワールドくわくく 西村 陽一 (アメリカ総局長)

統領は、南部バプテスト連盟をそんなメッセージを送っている。だから、大統領が連邦最高裁判事に指名したハリエット・マイヤーズ大統領法律顧問の評判が芳しくないのを見て、ホワイトハウスがとった策はわからなくてもいい。大統領の懐刀、カール・ロープ次席補佐官は、福音派の有力指導者に電話して「マイヤーズ氏は熱心な福音派だ」とささやいた。「心配するな。彼女はあなた方の仲間なのだ」という趣旨のメッセージを流し、共和党内の空気を暖めようとしたのだ。

福音派キリスト教徒の 広がる政治的ウイング



10月3日、ブッシュ大統領から最高裁判事への指名を受けてコメントを出すマイヤーズ氏＝AP

いいことばかり。福音派の大統領指名撤回に追い込まれた。4万5千教会が加入する全国福音派連合のリチャード・シジウ氏が語る。「福音派は政治家の世襲戦略のために勝手に使われてはならない」。ブッシュ政権と宗教右派との蜜月ぶりを眺めてきた身からすれば、これは異例のことだ。大統領は指名撤回に追い込まれた。4万5千教会が加入する全国福音派連合のリチャード・シジウ氏が語る。「福音派は政治家の世襲戦略のために勝手に使われてはならない」。ブッシュ政権と宗教右派との蜜月ぶりを眺めてきた身からすれば、これは異例のことだ。